

科目名	専門演習 I Seminar I						
科目担当者	山梨 顕友 YAMANASHI Akitomo						
単位数	4	配当年次	2年	授業形態	演習	開講学期	通年
履修学部・学科 [区分]	経営学部・経営学科 [専門教育科目 演習]				ディプロマポリシーとの関連	(3)(4)	
授業の概要	<p>経済学の基礎理論であるミクロ経済学の教科書の輪読を行います。世の中の人々の振る舞いをどのように言い表すことが適当であるか考えてみることにしましょう。</p> <p>割り当てられた教科書の担当部分についてスライドなどの資料を準備して発表を行ってください。意見や質問などは随時歓迎します。教科書は上下巻ありますが、1年間では上巻の基礎編だけで終わると思います。</p>						
授業の到達目標	<p>① 経済学の基礎理論であるミクロ経済学の教科書の輪読を通して、現実社会で活用できるように学習した理論についてさまざまな観点から検討して、その含意を考えることができる。</p>						
授業計画・内容	1	ガイダンス	16	所得変化の消費選択への影響			
	2	市場とモデル	17	価格変化の消費選択への影響			
	3	需要	18	所得効果と代替効果			
	4	供給	19	代替材と補完財			
	5	市場均衡	20	市場の需要曲線			
	6	弾力性	21	生産の基本			
	7	消費者余剰と生産者余剰	22	短期の生産			
	8	価格規制	23	長期の生産			
	9	数量規制	24	企業の費用最小化問題			
	10	税金	25	規模に関する収穫			
	11	補助金	26	技術変化			
	12	消費者選好と「効用」	27	企業の生産拡張経路と総費用曲線			
	13	無差別曲線	28	機会費用			
	14	消費者の所得と予算制約線	29	サンクコスト			
	15	消費者は何を消費するか	30	総括			
授業外学修 (事前学修)	<p>発表者：発表の準備をしてください。</p> <p>それ以外：教科書の対応する部分を熟読しましょう。よく分からない用語があれば確認しておいてください。(2時間程度)</p>						
授業外学修 (事後学修)	<p>授業の内容を教科書や配布されたスライド等で復習し、理論を適用することができる現実の事例がないか考えてみましょう。(2時間程度)</p>						
成績評価方法・評価比率・到達目標との対応	成績評価方法				評価比率	到達目標との対応	
	発表 意見や質問などによる授業への貢献				70% 30%	① ①	
成績評価基準	<p>秀：(評点 90 点以上) 到達目標を極めて高い水準で達成している場合</p> <p>優：(評点 80 点～89 点) 到達目標を高い水準で達成している場合</p> <p>良：(評点 70 点～79 点) 到達目標を一定の水準で達成している場合</p> <p>可：(評点 60 点～69 点) 到達目標を最低限の水準で達成している場合</p> <p>不可：(評点 60 点未満) 到達目標に達していない場合</p>						
教科書	レヴィット『ミクロ経済学 基礎編』東洋経済新報社						
参考文献							
その他							